

今治明德短大の「歩き遍路体験学習」は五年目を迎えた。九月十二日岩本寺を出発、金剛福寺から西回り月山神社経由のコースを歩き、十六日全員延光寺に無事結願。学生たちが何を学んだか、レポートから紹介しよう。

今治明德短期大学 歩き遍路体験学習レポートから ①

「歩き遍路体験学習を終えて―お遍路の魅力」

田窪 敏晃

歩き遍路を体験した自分が、学生やお遍路に関心のある人に更に興味をもっていただき、伝統・文化継承のためにもぜひ体験してほしいとの思いから、サブタイトルに「お遍路の魅力」を選びました。歩き遍路ではいろいろな感動がありました。▽まず、お接待について述べたいと思います。お接待といっても実には様々なお接待があります。言葉、食べ物や飲み物、休憩する場所を貸してください。小学生から言葉と笑顔のお接待をいただきました。「どこへ行くんですか？」

「頑張ってください！」交わした言葉は少ないけれど、心に響くものがありました。何気ない言葉のキャッチボールが、不思議なことに疲れた心と足取りを軽くさせるのです。私はいままでお遍路さ

んを見かけても「タイムほど励みになるか」を実感が合えば声をかけよう」という考え方でした。お遍路さんを見かけたら自分と言葉のお接待を体験し、その一言が「どれ

さまざまな感情の日々



太平洋を左に、土佐清水市を行く明德短大生

▽次に遍路道です。遍路道ではお遍路さんが道に迷わないように道しるべを作ってくれていたりと、お遍路マークのシールが貼られていました。私たちが次に来るお遍路さんのために、少しでも

通るくらい道の道で、厳しさを体験しました。昔は道も険しく自動販売機やコンビニエンス・ストアなどもなかったもので、飲み物や食べ物にも苦労したと思います。先人の苦労を思いながら、一歩一歩を踏みしめました。海、山、川そして青い空や新鮮な空気。鳥のさえずりやセミの鳴き声。遍路道を歩き、身体全体で自然を感じました。▽最後は団体のお遍路についてです。お遍路は一人で歩くというイメージが強いのですが、団体での良さも存在します。宿泊先の宿ではお互いテーピングを巻きあったり、志気を高め合ったりとお互いを支え合いました。参加したメンバーの年齢や性別もまちまちでしたが、皆が真っ直ぐ前向きに歩く姿には熱いものがこみ上げてきます。そこには言葉で表現できない感動がありました。時間が一歩一歩を踏みしめるようにゆつくりと進み、日々さまざまな感情を体験することができました。優しさ、強さ、感動、苦勞、実感：ありきたりの日常の中では、このような感情を一時に体験するのは稀なことだと思います。一日がすくなく長く感じられ、とても充実していました。

「優しさ」思い出した

▽お遍路を終えて感じたこと：そこに決められた答えなどは無く、それぞれが何かしら感じ、掴むものがあつたのではないかと思うのです。今回、時間などの都合でお寺の歴史、伝統文化についてあまり学ぶことはできませんでした。しかし遍路道などを通じて先人が残した伝統・文化に、心と身体で触れるよい体験だったと思います。▽地域文化論から学ん

りました。出発前に装束を渡されたときは「自分で作って良かった」と思いました。昔のお遍路さんは、死装束として白衣を纏っていました。自分の息子が大病を患い、お遍路に出る際、母親が白装束を作ったという話があります。どんな気持ちで縫い上げたのか、胸を締め付けられる思いです。▽最後に、歩き遍路は若者の人間形成のうえでとても重要な事を学ばせてくれるのではないのでしょうか。大人になつて、忙しさに忘れがちになつてしまふ「優しさ」や「感覚」など思い出させてくれる実習だと思います。人から聞く話だけでは「お遍路の魅力」は伝わりにくいと思います。ぜひ、自分の心と身体で体験してみてください。人とのふれあい、仲間の素晴らしさ、先人が築き上げてきたもの、いろいろなことを学べた最高の五日間でした。